

2019 年度第 1 学期始業式式辞

おはようございます。今年度から校長に就任した橋本です。校長としては新米ですが、穎明館には 1987 年の中学校の開校以来、30 年以上、奉職しています。先生方、そして今までの卒業生たちと一緒に学校を、穎明館を創ってきました。スクールリーダーとして精一杯、頑張りますので、よろしくお願い致します。今日は、新年度新学期に際し、3 点、申し上げます。

一点目は、穎明館の教育目標の確認です。今、私はスクールリーダーと言いましたが、穎明館は、リーダーを育成することを教育目標とした進学校です。リーダーにもいろいろあります。私が考えるリーダーとは、集団をぐいぐいと引っ張るタイプのリーダーだけではありません。「組織に貢献する人」、「世のため人のために尽くす人」は皆、リーダーたり得ると思っています。仏教用語で、「一隅を照らす」と言いますが、将来、何らかの形で世の中を照らしてほしい、できれば皆さんの希望の場で社会に貢献してほしい。学校は、その社会での訓練をする場でもあります。これからの新しい学年、学級、あるいは委員会やクラブなどで、大いにリーダーシップを発揮できるように積極的に動いてみてください。かつて、ナポレオン・ボナパルトはこう言いました。「リーダーとは希望を配る人のことである」と。皆さん一人ひとりが、希望を持ち、希望を配れるような人になってほしい、そう願っています。失敗を恐れず、今年度はお互いにチャレンジする年としましょう。尚、今回、私は校長になるにあたって、先生方にも相談して、「2019 穎明館教育のグランドデザイン」を考えて決めました。配布されましたので、よく見てください。私立学校で一番大事にしているのは、建学の精神です。穎明館では創立者、堀越克明先生の創立の思いです。思えば穎明館も創立以来 30 年以上たち、グローバル体験、学校行事、クラブ活動をはじめ、多種多様な教育活動が行われる豊かな学校になりました。本当に学校として成長してきました。ただ、一番肝心なのは、進学校穎明館、皆さん一人ひとりがしっかりと将来の夢・進路目標をもって、学力を身につけて、進路実現を果たすことです。学校目標としても進学実績をしっかりと残すことです。私はこの 1 年、2019 穎明館教育のグランドデザインを意識しながら、学力形成の場として、「学び舎」穎明館の教育環境を整えていきたいと考えています。たとえば、まず学習目的の受

験生・高校生のために高校棟3階と無窮館を夜7時まで開放し、自学自習ができるようにします。ルールを守って、大いに活用してください。また、勉強でつまづいている中学生のためにも、年度内には、放課後学習支援システムを始める予定です。やり直しは何時からでも可能です。皆さんも、期待に応えてほしいと思います。

二点目は、穎明館生にぜひ心に留めてほしい言葉を送ります。「切磋琢磨」です。お互いを励ましあい、競い合って向上することです。今年から中学3年生でアドバンストクラスが編成されて、スタートします。アドバンストクラスの中での切磋琢磨、またスタンダードクラスでも、アドバンストクラスを目指す気持ちで切磋琢磨してほしいと思います。中学2年生、中学1年生も校訓通り「目標を高く」もって、切磋琢磨してください。4年生は英語・数学等での習熟度別学級、5年生は文系・理系のクラス編成のスタートです。6年生はもちろん受験勉強。穎明館生として、ともに学びあい、高めあい、励ましあう切磋琢磨の雰囲気を作っていきましょう。穎明館生の共通の課題に「文武両道」、「両立」があります。「文武両道」、「両立」、皆さんは、今まで十分に成し遂げてきましたか。勉強に取り組んだ上でのクラブ活動です。穎明館でクラブ活動を頑張っている人が多いことは、大変、素晴らしいことです。学校全体の活力を生み出しています。一方で、クラブ活動は楽しいけど、勉強は大変だ、苦痛だと感じて、手を抜いている人はいませんか。勉強することは、自分の道を切り拓く最強の武器になります。「今、意味がないからやらない」という態度は、ただ困難から逃げているだけです。目先の損得にとらわれなくて、意味がわかるようになるまで続けて頑張ってみることも大事なことです。今年度も、今年度こそ、仲間とともに「切磋琢磨」し、「両立、文武両道」を実行する年にしましょう。

三点目は、校歌の一節でもある「穎明館こそわが誇り」を確認したいと思います。今年の卒業生、32期生は大学進学面で大変、頑張りました。昨年、悔しい思いした東京大学をはじめ、穎明館が学校として目標としている難関国公立大学にも多数、合格して誇りをもって卒業していきました。在校生の皆さんは、ぜひ先輩たちの背中を追いかけて努力してほしいと思います。学校は、穎明館は、生徒皆さん一人ひとりの思いと行動で、成り立っています。一人ひとりが、「よし、やるぞ」、「やればできる」と思って行動すれば、雰囲気が変わります。今までうまくいっていた人だけでなく、失敗していた人も、先生方は全力で応援して

いきます。たとえば、今年は6年生の夏期講習を、学校閉鎖期間を除き、3週間すべてで開講予定です。6年生は、自分の課題を考えて、積極的に講座をとって勝負の夏の成果を上げてほしいと思います。私はこれから世間に、「生徒も先生も、頑張るお互いを応援しあう学校、それが穎明館です」と、どんどん伝えていきます。今年もこれから、入学希望者をはじめ、多くの来校者があると思いますが、真剣に授業に参加する姿、学びあう姿を見せてください。もちろん、来校者には、気持ちの良い挨拶や会釈も忘れずをお願いします。皆さんは先輩の背中を追いかけて努力する、そして皆さんの背中を追いかける、よりよき後輩、将来の穎明館生を迎えるためにも協力する……以前、マスコミの方から取材を受けたときに、「穎明館で何を一番、見てほしいですか」と質問されたことがあります。「そうですね。緑豊かな自然環境、立派な橋、新しくできた人工芝グラウンドはじめ、充実した施設などたくさんありますが、なんとといっても生徒です。生徒が誇りです。ぜひ、ありのままの穎明館生を見てください」と答えました。私の、昔から変わらぬ正直な気持ちです。生徒の皆さんも、創立者、堀越克明先生作詞の穎明館校歌の通り、「穎明館こそわが誇り」と胸をはって、心から思っしてほしい。そのために充実した学校生活を送ってほしいと願っています。

新年度、新学期の始業式にあたり、穎明館教育の目標「リーダーを目指す」、「切磋琢磨」、「穎明館こそわが誇り」と3点、話しました。2019年度は「平成」から「令和」への改元の年で時代の節目にもなりますが、皆さんが健康で、事故やけがなく安全な、実り豊かな年になることを願いつつ、第1学期始業式の式辞とします。以上です。